

9 補強土工

9-1 木製補強土壁工

特徴

本工法は、補強盛土工法の壁面に木材を使用するものであるが、盛土は敷鋼材により安定させ、壁面材は敷鋼材の壁面部分の型枠として機能するもので、盛土の安定計算には影響しない。

素材丸太を使用することも可能であるが、施工時に径を揃える手間がかかり、完成後に壁面部の緑化が期待しにくいことから角材を使用する。

施工場所

通常の補強盛土工と同じ。

施工方法

斜タイ材で縦材（軽量溝型鋼）を所定の勾配及び間隔に設置し、同縦材間に角材をはめ込んで壁面材を設置する。これに通常の補強盛土と同様に敷鋼材を施工する。

全景



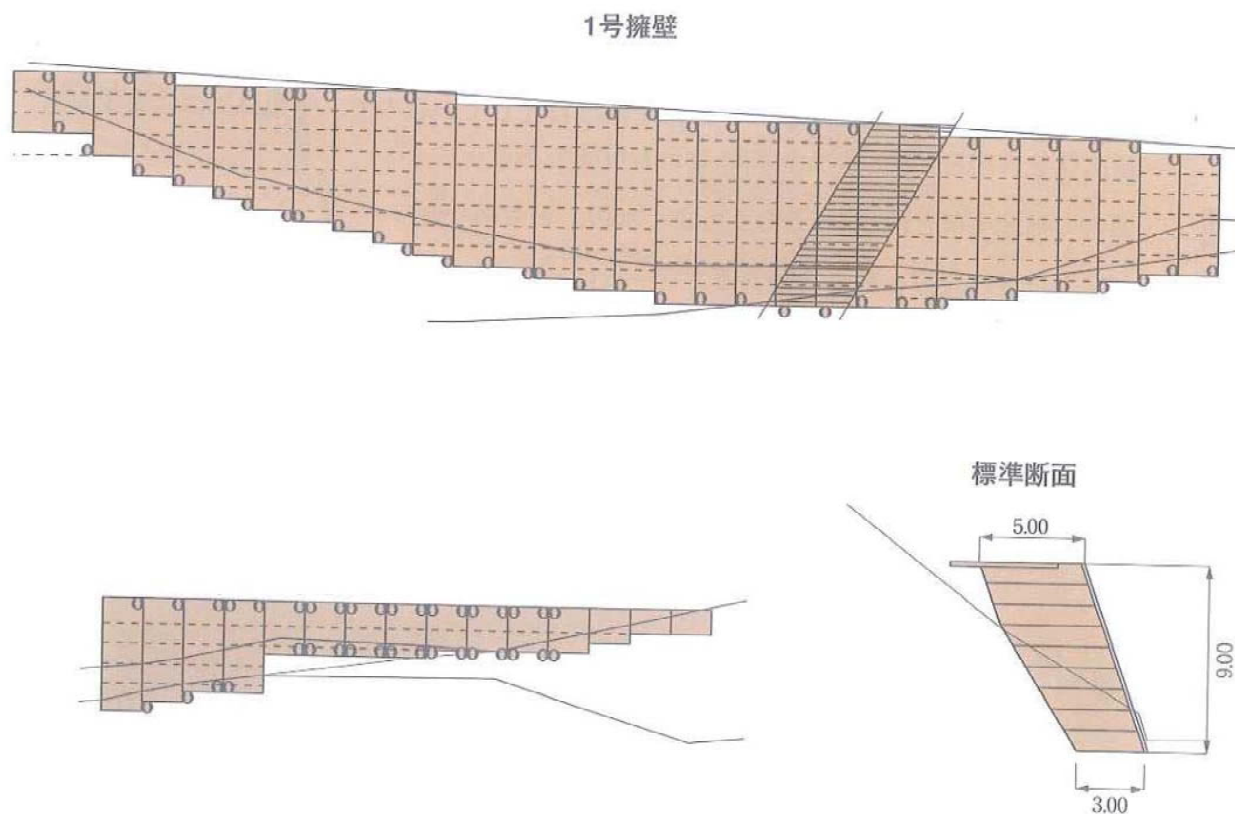
施 工 地：熊本県芦北郡芦北町

事 業 名：ふるさと林道緊急整備事業

施工主体：熊本県

標準図

(単位：m)



材料・歩掛表

歩掛表

(100 m²当たり)

区分	名称	仕様	数量	単位	備考
壁 面 材 組 立	世話役		0.23	人	
	普通作業員		5.15	人	

歩掛表

(100 箇所当たり)

区分	名称	仕様	数量	単位	備考
斜 タ イ 材 設 置	世話役		0.31	人	
	普通作業員		1.83	人	

敷網材布設

別途計上

中詰材敷き均し締め固め

別途計上

材料表

(1,000 m²当たり)

区分	名称	仕様	数量	単位	備考
木材	壁面材	(杉正角)12cm × 12cm × 198cm	66.2	m ³	
	間隙材	(杉正角)12cm × 12cm × 12cm			
鋼材	縦材	15cm × 5 cm × L	13.5	t	
	固定材	5 cm × 5 cm × 199cm			
	斜タイ材	φ 10 L=95cm			
	取付金具				
	アンカー筋	φ 13 L=60cm			
敷 鋼 材					
連 結 棒					
吸 出 防 止 材					
中 詰 め 材	現地発生材				

9-2 木製補強土壁工

特徴

構造・施工が簡単であり、面状補強で盛土材の適用範囲が広く、コーナー、曲線部にも施工可能である。

壁面に開口部を設けているので、緑化が可能である。

ジオグリッドの巻き込みにより、補強土壁は自立しているため、壁面材には、必ずしも耐久性を求められず、壁面材の取替えも可能である。

施工場所

通常の補強土壁と同じ。(道路、造成、水辺、土留柵など)

施工方法

所定の位置に設置した自立型壁面フレームに、間伐材等による壁面材を組立てる。後は、通常の補強土壁と同様に施工する。

全景



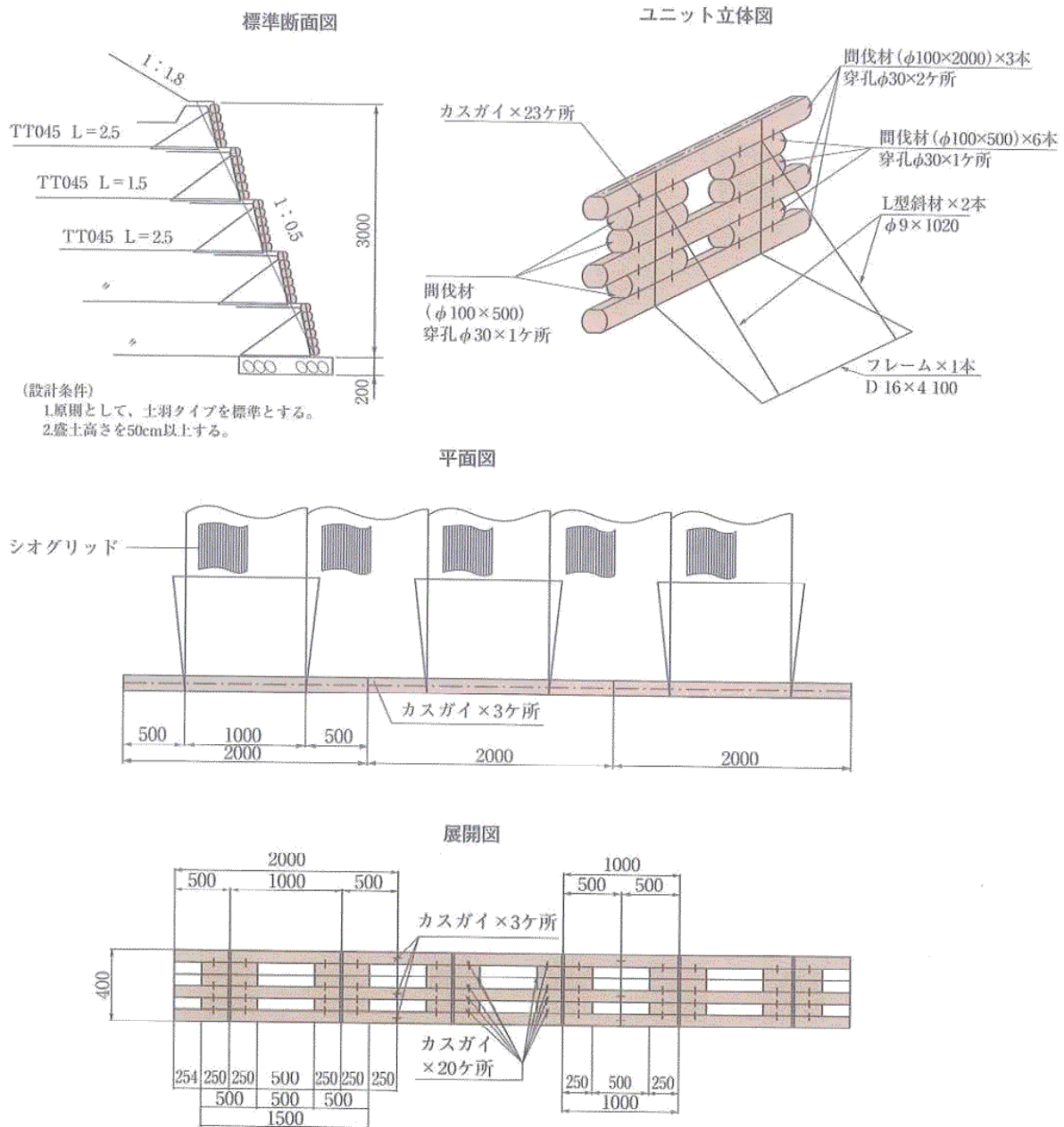
施工地：愛媛県北宇和郡広見町

事業名：基幹（広）第1-1号林道開設事業

施工主体：愛媛県

標準図

(単位：m)



材料・歩掛表

(10m 当たり)

名称	形状・寸法	単位	数量	摘要
緑化マット	太鼓落とし φ 10cm × 2.000m 斜用	本	75.00	
	太鼓落とし φ 10cm × 0.500m 斜用	本	150.00	
フ レ ー ム	D=16mm × 4,100mm メッキなし 斜用	本	25.00	
L 型 斜 材	φ 9 mm ターンバックル付 斜用	kg	50.00	
緑化マット	ヤシガラシート W=650mm	m	30.00	
補 強 材	TT045 SAMP W=1,000mm	m ²	187.00	

壁面組立

(100 m²当たり)

名称	単位	数量	摘要
一般世話役	人	1.00	
普通作業員	人	6.80	

補強材敷設工

(100 m 当たり)

名称	単位	数量	摘要
一般世話役	人	0.20	
普通作業員	人	1.00	